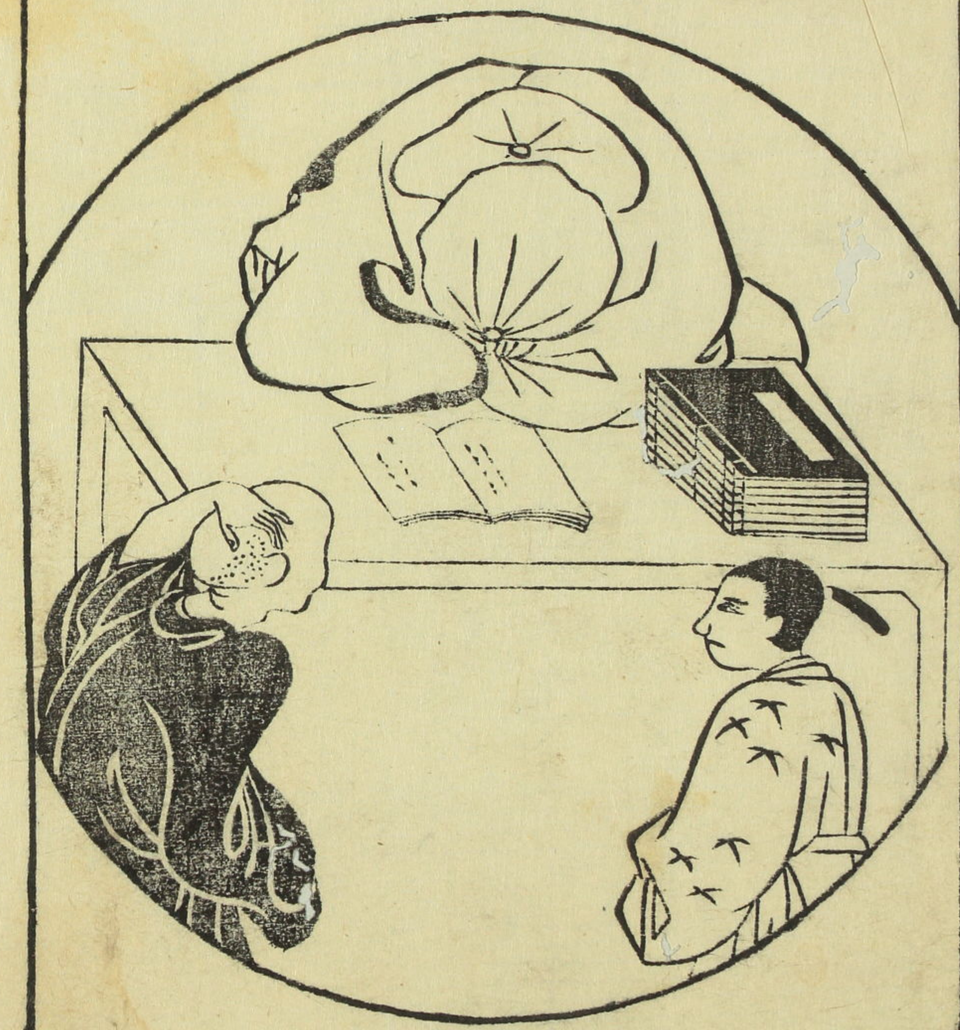
俳諧古今抄

惟撰貞享式

日・こ

非想天の部

文類圖



俳諧古今和歌集上

惣序

蓮二三房

今いにしへ俳諧古今和歌集上の司馬遷の史記
と滑稽伝とを子と母と別ち孔門の六科に名と
て詩諫の一道と作へしと常座の語名もと名と
称して滑稽伝いかゝ能諧のこゝろとゝる中疑一決
の作文あるゝ儒仏老荘の義のちまゝと貫れて談笑
と家の秘法ゝいあるゝ世ゝ世ゝ伝なれるゝ
作ゝゝいゝゝゝ

連俳の作家となりて連俳いよ〳〵盛なる世なれば
云々と中むかし北古今集にいちるを度の賀歌
なる詠歌の二字と記されし和歌の家も連歌
の門人倫と言倫北字論あれば祖父義の遺
訓なる例を我家の掟とたゝく〳〵世に封じ
穿鑿をなし〳〵なる詠歌〳〵俳諧〳〵
浅薄なる中流のをこがましきあり世なるかれを
これをしてなる時の用をなりたるけりあるを
なる〳〵文字の偏なる及ばしなるけれども
祖義の自言式とえる〳〵ひ孫なる命の東左式と

あるなる作中間の十箇條いそなへ祖義の遺言
をもむき按后の罪とかもりなる書ぬる人の中
なる〳〵る俳諧と詠歌のをこがましきあり求しる古今
の用世用とあるなる俳諧祖義の自言式いかに記秋の
学ばとなる一字なる古今北條記録とぬくなる作
北十箇條いた傳の格をなるなる人とあるなる名と
作なる百世のなるひとにたるなる作資北
人なる通なる中なるなる作資北
一部の次第を例なる上中下北二巻なるなる木鐵あれいもはなる
三部なるかなるなる祖義の十九條をなる再なる

とうちよりの所録と二冊ありとぞ一部
又異なる也しかれども連歌を不用の書連歌と
しるかるべしかれば中古の比詼諧を連歌に用ひて
遠く古代の滑稽とかこつ近く今日の俳諧と
ひとしかるべしかの古今和歌集の俳諧と
なしく一部の主旨なるべし俳諧古今
といふ千余一新の秘訓あれば先師いにしへ
ふるきを捨てあたらしきを取る一日百断の代語あり
連歌の両式より俳諧を言ひ出せる
和式式とかれあるべし詼言連歌のまことのあれば

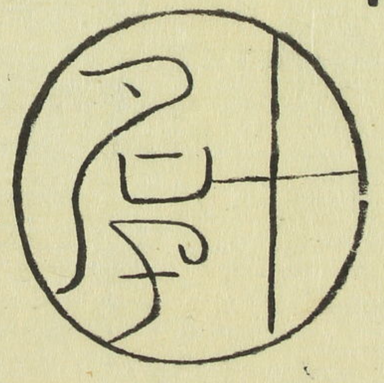
公卿殿上の酒宴にうたひ出せる
ゆえなきをもてはやす艶詞あるいは情語(こゝろのこと)
とあれども今和歌俳諧の用ふる所と知
のまことにおかしんやうの連式といふべきもあるべ
はなし詼諧とかくこゝにあるべし今こゝに漢土の俳諧
をかんがへて真字和式を用ひ代式と製
きりつゝ一しきそなへ式の大本あるべんと
論ずれば中古の俳諧を皆く連歌の式用
とかくて俗語を詼言とあれども和歌
かりて四字とかるに
くとかるべし言りの

そうひふうんや諸ともに五つとしてあへ
きにそれ祇園の拍子にもとづきて調と
いひかけて連弾を花園のかれいかとうたふ式の
名とせんとて加茂の式の名とはとて白川を
志へく眠さとやくとて一字二字を花園とうたむ
つとこゝろみるに式の名とせんとて加茂の
名をかくるとて文字を嫌とうたれる歌
うに胡越の食をもてふうんやとて付物の
大事ともいへる二道の建立をしつゝ新たなる
燃灯の心とはなんとて戒とをもち律とかなひ

それとかつれて老歌の言
とをもてこゝろをもつり書とをもて いとこう
七三式の跡とてあるんをと傳つゝ作りつゝ
て一名の初とあるも也とて傳仰の大道
をもとこゝ初の作をたこうけたるの智にひかれ
て百番を花園とあるをれい初長を先仰也
跡接を少つり文庫を語人の感作と家いて学
とをもに年七年をもつ一言られいけて言葉物
い全く物こゝ作の大任をして一名の道二巻いろ
へをもこんあるて両式を本より二仰の接紀をて

一疑の私といれさんくあ留てる此国のひらり
ひて岩戸の鏡此国ふ神と誘奉る先て
ひるんるもの林此ともまるる祝の陪此部
ひて作諸のこるぬ示く拾さん

享保己酉三月吉祥日



古今抄凡例

一 此抄ニ〇今撰ス ト八祖翁ノ用捨ヨリ其下ニ新古ノ
遠用ヲ考ヘシ〇再撰ス ト八先師ノ監察ニシテ〇三撰ス
ト八蓮二カ拾遺ヨリ三品八今ノ相敗ニ知ヘシ

一 此抄ニ衆評ト衆議ト明監ト三段ノ差別アル八法ニ
支配ノ軽重アリ八一座ト云ク一世ト云ク高世ト八云ハル
總テ八新古ノ決論ニ百慮一失ノ辞宜ト知ヘシ

一 此抄ノ省法ノ下ニ或八家語ノ詞ヲ假テ實猛ノ二字ヲ
云ハ制度ニ時代ノ変ヲ云ク或八用ハ其人ノ自在

ミシテ用ヰル人ハ其人ノ不自在トハ今ノ式ニ人ヲ乱明セス仄ニ
古風ノ偏屈ヲ山明シトヤリ或ハ先師ノ再撰ノ下ニ題
如是ノ題トハ仏経ノ如是我聞ニテ滅後ニ再撰ノ折言語ヤリ

一 此抄ニ證句ヲ挙ル三系ヲ定テ名乗ヤキハ総テ祖翁
ノ證句ヤリ系ヲ定メスル此印ヲ書テ直ニ送書ヤル
多ハ先師ノ證句ヤリ但シ別人ハ句下ニ其名アリ

一 此抄ニ里園ノ印ハ総テ文法ト句格ヤリ然ヲ文字
ノ傍ニ隅テ自園ノ印アルハ或ハ却字ノ節目ト知ヘシ
或ハ對語ノ相敵ト知ヘシ或ハ二段ノ要文ト知ヘシ

一 此抄ニ古式ト云ハ多ハ連歌ノ兩式ヲ指シ古抄ト云ハ貞徳ノ
俳諧ヨリ埋木嘘竹ノ類ヤリト一部ニ埋木ノ名ヲ指
ヤル師資ノ辞讓ヲ密スヘキヤリ或ハ稀ニ本式ト
云ハハ今ノ貞吉子式ノ本文ヲ指テヤリ

一 此抄ニ異名異躰トハ或ハ牡丹ヲ源見草ト云ハ異名
ヤリ牡丹餅ト云ハ異躰ヤリ或ハ音訓ノ差別ト云ハ自雲
ヲシラクモト云フモ名ハ異ニシテ躰ハ同シ此故ニ異名ハ
一ト云ヘリ異躰ハ二ト云ヘル今式ト古抄ノ遺用ヤ尚條
ノ古法ノ下ニ悉知スヘシ

再撰貞享式序　並目録

東花坊

貞享はじめ一代式用ゐる中古の俳諧と今は俳諧
ことなる物の姿なるのみならず白馬の俗十二法
とをくりて拾ひ出す俳諧九條
とあるをもつて九條を今は式用ゐるいにしへ享
の代辰ゐ禄の発句ばかりにて二つもの間は撰ばれい
俳諧の時代とをもしはんみるべし貞享式と題を
い減ぜしめ人の称名ちるゐをしく一新の俗
まるかをもひ人の作傘とゆりうん手まはは麻

の切本とをくりて俳言連語の所作とをくとて俳諧
いまをく次第の論のをくりて士農工商の人とはをひ
下学分達の分を言ふより俗中は凡新とをくはん
をゐはをくて十九條の歳断を俳諧の子論いをく
て春句を地子の分をより服の新字しれ三は染
遠俗しは花八月はあり分ひ指をく去嫌をく同名
異用の設あるしをを命てをを古代の名同をく引和て
いをく式の書用とはをくをて外とを我門の達流をく
はをくをををくををくををく

あり或とかて清されるもあり陰てを時さへ
まむひて口接めはたしかられいかに再撰
の切くかたくてかをれて小枝おるるまくを地望
新角のあやをうはんとやをとをを外移のりく
あんをを兎園の用をいとをを作くをを如意のをを地
達をたんを紙をきの偏用ありをやををを武洛
の古人人を詩しけ式をたをるくをたをを移ふ
不をけ書を見て一襲一股の家をとをを訛借の
古をたをあれを他借の公式いかくのをを式
百代のをを家をををひい遠くをを書の秘をを

近くをけ撰のお現ををりて他借をたりて代式の
論をいををを世代を五倫の支をやをけ訊諫を
談笑の用ちをををるくくかのををくかを地
ことをくをを角て故義のの接ををてるを建門
のを地をを高れを地弾琴弾悔

寶永七庚寅十月十二辰

夏享式目録

大段ハ本式ノ目録ナリ
小段ハ再撰ノ附録ナリ

一 俳諧と誹諧と字論ハ事
一 俳諧と訓諫の道ある事
一 六義と今の和訓ハ事
一 発句と切字ハ多名ある事
附 心切のる
中切のる
挨拶切のる
一 切と二段の差おある事

附 二字切のる
三字切のる
三段切のる
二段切のる
一 心切と多名ある事
附 とはりのる
不はりのる
大過のる
玄妙切のる
一 押字と抱字ハ事
附 句讃切のる
無名切のる
一 二段のる。ハ事
附 浮哉のる

一 新歳のこと
一 元日のやの子此事
附 ゐ此子のこと
らん此子のこと
一 百龍と表八句此事
附 發句と詩のこと 脇と影子のこと
才三と手余波のこと 四句月の裏ぎり
一 四折と曲の節此此事
附 新而と句作のこと
撰集と内紙のこと

一 月花此事
一 指合と書簒此事
一 感句此事
一 季節の跡こる物此事
附 二季三季四季こいろ物のこと
夏の二季八三句去きやのこと
一 季こあるこ新こある物此事
一 名所こ雜の發句此事
附 新躰のこと 四季格のこと
詠貨寄のこと

一四季の名類此事
一俳諧に假名遣此事

惣合十九條

古今抄序目録

再撰貞享本　　目録

古今俳諧序　　芭蕉庵

おもふに我朝の俳諧を二条歳のむかしより名ありて
周秦の比より訓諫にもちれ須臾の間に談笑と
ひろめられ史記にもれ門の落書にもれ〳〵へて
和漢に風雅の一ちをあらそひ中比は
の誹諧にて千を應安の新式にはとちゝい慶長
の御金にひろまりて拾合とやしに玄蘇と
ゝゝむかしの公式にもりて東洛に

ゐるひとびとつゝれあり　それも中古の説ゐくことに
連云北説とゝこひて説の後言とあいうへ
今北説の次とて一ゝ書よりのをうひてあへ
ゐうゐいとれのちひしりとれもちゐかをれを
作家敬祥の二説あるうとく説らあさむま
ゝとり学ゝとも大和の風雅を陽説の説ゝとれ
て言説をあくの遊あんを作ると古人の
詞しゆゝとれと作りあれとれと作り新
ゝとを我いふ法式の的説ゝてはゝとゝ連歌の
むゝて故ゝとれとゝ今北説者ら作ゝ

歌とのてを言ゝあゝひ遊て実ゝとて我ゝ
ゝとゝ重典の説ゝもゝとゝ
かゝとゝあんてゝとゝひはゝ帝月ゝをゝんす
とゝかゝい和歌ゝ和世物氏のひゝあんゝるゝい
れゝの家訓ゝ貫政説の左訓と行て貫説
あひゝとゝれゝとゝ右ゝ行ひゝて能説の事語
ゝり張ゝ本ゝ四の学ゝとゝ世ゝの風雅とゝ
ゝ説ゝとゝれい猛ゝく悪とゝらゝへきゝ実やゝ
て善ゝとゝとゝむへゝれいゝたゝ式の貫説とゝて自
て用ゆゝとゝ人の自在ゝて用いゝゝゝ人の

不自在にて、はかなき世にはかなき世にはかなき世には

[illegible]歌假名おなれいまつ[illegible]
て俳諧くしよりまれいいの[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]俳諧二ついい俳諧[illegible]
信輔の真俊おもしろ[illegible]て宗祇の言葉[illegible]
甫尾ゆ[illegible]て諧ハ胡蝶ゆとあれい俳諧を
[illegible]て諧の非皆[illegible]
[illegible]代くし俳の[illegible]と用いふ[illegible]歩皆ゆ[illegible]
[illegible]ふれ俳[illegible]対して穿鑿[illegible]
[illegible]の秘[illegible]ひて俳諧[illegible]

[illegible]
東花云〈再撰[illegible]
俳[illegible]
[illegible]
て俳[illegible]
[illegible]
[illegible]

とせ用ととなるべし今は不自立式こゝに法こゝ
ろをすとなりて文字言語の人名ほ
ほてう也

○ 他諾と訓諫の道ある事

天地をたゞしくして格天たるあり地たるあり道
ゝよりて出るを人たるゝ道ゝりをとりをとると人間
の私なりたゝ三綱のまうひありて善たるあり
悪たるあり善を釈迦と尊しとて来来と
ゝより始れるを実とし仮名といふ也

なべい花花揚墨の美風をいひてもを蔵の術の
たゞくまして士農工商の家業とそなへ諸歌連他
の以新しあるふとと人間の世代とゝりたれら
中ゝ他諾の一たゝ漢史ゝ漢籍者の名へ所あり
用奏事此むうもたゝかゝ所れも親要の法
ゝ代ゝまゝまゝ今ゝてに用ゝり二の金歳い
たるありて法あゝしゝ○今接ゝるに他諾の
道いたゝ花の高遠とおゝれゝゝ儒仏の虚実
とやゝけて訓諫とゝるゝあり詩歌と
法ゝあゝて世代ゝ今月の用とゝゝあんゝゝゝ

諷諫し談笑し滑稽し賛詞の中にもやはり
ものいふもあれば世はまた倫の和と本として
君父の善をもとめ婦人の惡をこらしも
善とし善にして惡とし惡にして直言とし直諫
もされいつも付き人の媒嫌とやきもちをたれと言の
大なるものやもれし惡王といさあ
惡女とあるべきをのれ惡と善となり人を
傳仰の言に感動せられて或は善にして
はしあるやと殷紂のごとき惡王をとのれ惡と
惡とをりて比干の腹と王をとりて重人の肝

をとりくだくこれ人間の善惡をくらべられ
いかに方論照の光明をくらべられ特
とあるがごとし人をひかげて我惡をひろかくし
けれど楚の子西を惡王の使ひとしてこれ
談笑より楚王の惡をもちもちやきね
をもとりて傳行の文子し諫官の五義に中し諷諫
をもとりて最上とし加子西をもちもちいねばやや
傳家に仰けも探嫌とつるいたのれ
う惡をとくもりてもつて善人とあきらかに智はれ
釈せるれ孔子も大なる孔子とあるべし談笑と

りて敵れわくれい直諫ちい人ぬんをつて古今
こと悪人の引ちをつくるをふちりきりたれい佞諂の
ふをつてあを治国齊家の一助ちて仕とをくあ
又倫とやりきんちの儒佛の大ちをつくちまを知
へきをそをくは訊諫ちりて爲に知人に方朝ち
賛人正諫ハ明節明節不可以久安世故に
誠諧ハ取容ちを世賛人訊諫の内秘とをく
佞文ちを談笑の和視とこをちりて偉人佞諂と云れる
人をちへしちをそをくを今の佞諂ぬことに云りてかをち
へきをわをぬ高言の風ちあをい般捷の智ま

ちりてたをくを賛相ぬ仲のをとをを一言の下に翻破
して歌人連音ぬ揖讓ちあをりをを建内の
をを電をを廛笑のちをにををよをいをを名い
ぬを人和ちあををを高ををねをいかの貪欲ちをを
原懐ちを夷ぬ叱言ル顔回ち樂ぬ贅詞ル一分八間
のををををあををを学ちを百人の原ぬ弟とををを
百ぬ岸ちをのををりをををををををを
きんやをを命をを道の極ちを一方能ル方義ル
もをををあをりぬ自證ちをを二三子をに佞人
をををを人佞諂ちを高下ぬ媒ちりををを連歌ち

わるれども誹謗するかゝるもの五七北向法を言語の
あるひとりて例の諂諫をもつて公道とす例北
談笑をもつて公法とす一生をもつて然りの達る
不ることを世くに北衆議をもつて為
東坡云北一路の愛文を儒仏の光迂遠を
語る義者の人北高峯を新して仏法とす
世法の隨一とす生をもつて達門のことを地と
いひ下学に達の用をもつて文章北塵を笑い
うたに勤彼をへしりたるの大言い
荘子の塵談の多をもつて仏法天道

のたとへをもつて人道のポとなすをもつてん
塵実の塵実をもつてはいとはるへきをもつて
仏法の様変をもつてかるるをもつて仏法の
高峯為人

○六義と今の和訓北事

詩学北六義をもつて漢土を漢和を訓をおこり
我為るい方を集をひろめりて遠学を仏法と
をの跡とおへり風賦比興北雅頌とをもつのをる
各用をもつて風雅頌を綜と為賦比興を緯と

あるを詩の所義とせしかば法あるとせしを
六義の法を和漢ともに合ぬるを古今集の
古法もみなを六義とせられんてすいえあるまし
きとなるをもとく毛詩の六義に貫ぬきをれ
おのれ中ほど賦比興の三名を訓じたれば
てあの和文とあるをいはゆる遠音とひはとも一発一箭
の的あるをもて吹や嘗はせ祝おかをもとめく
推量をもて祝ほとはいふ命し○今按ずるに六義名称
義なをは新頌の三種を世界の人和と訓諭
間雖し哀乐とをもあるをうしく主使士民の心

をはるをも賦比興の三緯をへ眼界の景物を訓諭
して論語へ文質をもはゆるをもくるる歌竹木の
名をもはるもをもをもを

ゆありもてしんを然れども

風

訓義ニ風トハ訓諭ナリ爰ニハ風言ト訓スレトモ和歌ニハ副歌ト訓シタレト比興ノ二躰ニ給ハシモ詩ニ日風者多出於里巷歌謠之作男女相與詠歌各謂其情周南召南親被文王之化ニ以ヲ偏為風詩之正經云然レハ其国其人ノ風俗ノ善悪ヲ風謠ニ依副テ為ニ云故ニ風化トモ註セシナリ○今按スルニ風化モ風俗モ總テ詩歌ノ訓諫ニシテ上所化スル曰風下所習曰俗トモ上ハ以風化下下ハ以風刺上トモ云ヘリ何レモ時代ノ風謠ニテ鎌倉代ニ葛藤ノ謠ヲ作リテ

其代ノ俗樂ヲ刺レル類ナリ○猶按スルニ我家ノ訓義ニハ風諭ノ二字ノ意ヲ連ヒテ諭言ト訓スヘキヤ然ラハ俳諧ノ字ト成セル訓諫ノ和ニモ叶フヘシカ去ル所名ノ太騒ナレハ此等ハ百世ノ明監ヲ待ヘシ

雅

訓義ニ雅ハ正ナリ直ナリ爰ニハ正言ト訓スレ和歌ニハ直言歌ト訓シタレト平諧ノ徒言ニ給レスレ倭語ハ吾訓ノ響ヲ憚ルヘシ○今按スルニ風雅ノ二躰ハ漢土ニ詩經ノ所成ニシテ風ハ虛ヲ以テ天ニ起リ雅ハ實ヲ以テ地ニ止ル詩經ハ此二義ニ濫觴シテ乾坤ノ二義ト成リ此故ニ我家ニハ風雅ノ虛實ノ二用

ト見テ凡ソ懲悪ノ虚ヲ用イ雅ニ勧善ノ実ヲ用レハ雅ハ正直ノ意ヲ汲テ公言氏訓スヘキヤ此等ハ異名同躰ノ例ニテ一世ノ異議ニ據ヘキナリ

頌

訓義ニ頌ハ称ナリ義ナリ多ハ祝言ト訓スレ和歌ニモ祝言ト訓シテ引歌モ給ルヘキナレ然ニ詩序ニハ雅頌ハ一躰ノ様ナレト雅ニハ国家ノ訓諫ヲ含ミ頌ニハ君父ノ寿量ヲ祝シテ神ニ出ル意ハ分論ニヤ此故ニ六義ノ引歌モ頌ノ躰ノミ明ニテ其外五名ハ給ハレ○今按スルニモ詩ニモ雅頌篇朝廷郊廟樂歌之詞其語和而莊其美寛而密正之於雅以大ニ其類之於頌以要ニ其止世ノ詩之大旨也ニ然レハ雅頌ノ二用タル外ニハ莊密ノ意ヲ備ヘテ訓諫ノ正直ヲ行ヘリ内ニハ和寛ノ情ヲ含ミテ詩ニ音ノ優美ヲ調ヘレ多ヲ孔子ノ意ヲ給ヘル文王ノ文ニシテ孔子ヲ我家ノ大祖ト成ル自身ノ和ノ部モ此謂ナリ之経ニハ例ノ温厚ヲ知ヘキナリ

賦

訓義ニ賦ハ鋪ナリ量ナリ多ハ数ト言ト訓スレ和歌ニモ美歌トアリ文選ノ十七ニモ象事明白也ト云ヘルハ眼前ノ物ヲ美数テ直地次第情ヲ演ルノ謂ナリ定家卿ノ叙文ニモ賦ハ歌人ノ本意ナリトハ

四季ニ月雪ノ変相ヲ詠シ花卉ノ優游ヲ知レト
ナリ賦ハ殊ニ文章ノ惣名ナリ

比

訓義ニ比ハ比喩ナリ義ニハ準言ト訓スヘシ和歌ニモ
準ヘ歌トアリ譬ニ托物比ハ其ト言ハ又類ナリ或ハ書ニモ
ヲ指ヘテ身ニモ木ニモ物ヲ言ハ又類ナリ或ハ書ニモ
他ニ子ヲ為ニ家ニ子ヲ比ハ比方ニ於物ヲ其ハ托ス事ヲ於物ニ
云ヘリ○今按スルニ比ト其ハト姿情ニ先後ノ心得アリテ
比ハ物ヲ取テ其姿ニ準ヘ其ハ物ニ托テ其情ヲ起ス
物ヲ催スト物ニ催ハシト自他ノ差別ヲ知ヘキナリ此ノ事ヲ
他諸ノ微中比解紛比云ヘキナリ

興

訓義ニ其ハ誘引ノ義ナリ義ハ誘言ト訓セン和歌
ニハ喩ヘ言ト訓レスレト風比ノ二訓ニ紛ハシ然レハ其ハ
ト風ノ字ノ和訓ハ六義ノ中ノ太騒ニシテ我門ノ衆議ハ
智足ナレト百世ノ明監ヲ恐ヘキナリ○今按スルニ其ハ
一義ハ和漢トモニ今明ナラスヤ玄ハ論語ノ陽貨篇
ニ子路ニ詩経ノ風流ヲ勧テ詩ハ可ニ興ハスト八四季ト
ノ月雪花卉ニ譬ヘテ優游ノ情ヲ其セトノ
謂ナリ然ルヲ例ノ朱註ニハ發ヲ起ス志気ヲトノ
云捨シハ孔子ノ宣給ヲ似テ而非ナル物ニヤ興ハ
決シテ遊其ノ其ハト註スレ詩者人心之感

物ニ而形ニ於テ言ニ之餘リ也ト八朱氏ヤ詩序ニ云
ナカラ何故ニ自語相違セルヤ此等八教誡ヲ先ニシテ
文章ヲ後ニセシ論語一部ノ取違ニテ先後八例ノ
察スヘキナリ然レハ毋ノ字ヲ以テ詩歌ノ大本ト
知キナリ

○發句ニ助字ノ有記ある事

むしろ助字ノ有ルハ十八字ノ正ありて和哥ハ違歌
ニシテ此ハ法あれ例ノ所有ルトモ有ルとあるそれ
いろ〻和ノ心得と云ヘシ自ラ有ル所ノ

るあるつまり内ノ中ノ古ノ祝詞より云くの名用
あれとも全く連ニ云ノ此用ノ有ルハ此祝詞ノ
姿ニ同所ノ用ノ有ルとあるとも和一ニ共ニ
助ノ用ノ有ルを物ニ對シテ差ノ異色ヲ有ル
ニ云ニ持ニ云ケテ物ヲ二ニ云ル有ル終
ありて云ノ一章此者内ニ云れりかを助ノ
用ノ有ルを或ニ一ノ字ノ働あるやのまれを
いひ或ニ雖朝ノ助ノ字とあるしたるむのまれ
れとよこ云ノ何誰しらへ或ニ未ニ体ニ云る
い連ノ懐ノ有ケリ静ニシテ物ニ対ノ有記

あり去るべき者の中にいて子と宣ふことを
及ばれ耶とうらめしく思ひ侘び給ひ
ましたれいまさらいふかひなきとも
さまざまあまれいまさらこれ言はんとて
制札の法を言ふ人一〇人梅まうた紙をやまい心地と
いひ中ばといひ接拔ばそれ心詞と
いひ法とも性ある物さまざまい

心地　いまだ思ふ人ことばかりを
やうに花ぬ宮もまことに錦の
ぬれいけばのまうかたいまだ下ぬまと

又なを何とてとお事ばかりに詞と拾ひ後章まへ心と
拾ひ心詞とはこれいこと味あまたあれそれ
差あるといふりぬれと未練のいひかちて今ばか
いあるれとしもはきこんとなとうたに詞とは
れいといひかりて百世のあるひとあるかれ
又七の句絶のあるこんも詞ねらあるこ心地とて
ある名をいふれい句をこ節まして左ふまて切る
へれれい上段中段をかくめてく下段の句のあるれ
とぬるを全篇こんとあるとかはくいひ侘の
歌句とあるて侘さるに人のまるこんもし例て一歌

霊議とすべし況やすて公所著の新にんし詞し
おさねとをつゝ音句をてゆきの入不きき句
しあんをれをと道の自恨自祝ふゝこ世の石談
と意ひて自とよろをとと法ゝをとをれ不を
の所あれをあひうねををめうを石恨をて感作を
ふ信の一字あんん

中切　猫の恋やむ時。祝ゝの勝月

やをくとをて。いさよふ月のを
ちれ中切しおて所やむ時。何くをて何くをを
ん詠をなををを石切ををかうれをしけをを百之節

ちをと句祝のをとをををををて中切をを
をくうをを中切をををを合をり和歌しかうを
句議ありて讀師の人此句をひをん有徴の人を
ずををくををりを

接拗切　世を旅をををかく西のををを
人を家を雲を和を寄を

切切をを全く新制をありをををををを
自他の接拗ありてをををををををを
をし物を對をを差おをを接拗ををて切を合をを
ををり○今接をを右切を合を和寄連歌の心

へ沒あり〳〵名目をろれば新制ゆゑ近く一世
の奇談と云ふべし去年東花云〳〵再撰さるゝ
あれとしまだ知やすかるを用ゐ心切
さるゝをもの分れ出でるゝ所にて拙者版
の中ゆゑ外れといさぎよしいりまくる上の
ゆゑ出来詞と称し辞さん世事迅速と歌
まるに人しなり人いあり歌の方を云れて来て今
死さへ来ぬ事まるゝまゝ中ほどの中に
人とゆくゝるゝとト作の切にて自己の

発句とゆゝあけて事柄のいひかたを悔ひ
まれし論人顔我〳〵そ別の発句とあるゝん
やひるゝに成ゝの沈句と謀まるて
幸蹄の杖をむしり脚まて
は句を五絶の一幸にして意莫門の秘授ゆゑ
きゝはさしく哉の作をとなれてまゝんと
迄されるむまるゝん例のゆゑ不ゝ下ゝ哉の
の句絶ゝしゝを下作の切ゝ長いゝ出されとも
ゝれゝの作を例ゝなる者の意訓とあるて今ゝ
減後の再撰あれい降て當世の奇談と歌

きんやかうたとは答とかいたる中初
ちうをまつあはせあつられたるあつまの
高しやとしけを何くとて月朧と素朧
う寒食詩の用ひたるとてくらいをあはせ月を
やとくくとこの錦とせしくあれてはまきあれ
くうやとくいさとうとくとて雪降る詩を見はなとと
ぞとりいそれも中間くらいと侍るとはいかに
推按はとうをあはせ自向自答の格あつ或いはと
旋とくとうをいとくとうとくとて或い人とくとくとう
の間くとうとうや或いとうの句の錯綜しあるに

今按とおくとうとくとて但とおくとうの田の代かく
とうとて前代の出とやくとうとけんとて牛と耰とて
物とかけてけりとうくとと撞あくとうとて
却てくとうとおくとうとくとうとくとうと

へ云へに新古のそうしいろいろと云へ
二子切
云ひきたり。ちまき切とん雲ゆうけ
二子切
子てしらよ。意紀さきね。瓜むらん
云へと自家の作文あるへ三てまと三つの用あれい
云まと云ふの用ありてたれと合用の不法いろむ
用てたれの作句と押字（ヤ）押字（ヤ）の作法あるれい
切子と切出ものもあるへ
東老云中長祇おとたいとしけの祇おと
ルニてまと云ふ用とあり。さらと押字押字
おといいをとしいて公論あるを公用押字

けニ切とちまと切まと敵對しとちと一百の
とちりちとんたとけ切の係といむけ
あるまけ言葉と用の和意と書りたけ
用雄東とけ中ちあうとのく後世のいい
祇ありたの中に貳嘉や本佐いろ和意
巻してとたれと三てまの曲節と中いむ
ちないちむとあれいけ。やとけ。て疑て武と
敵對の詞ふうやしむとあり。疑あれいとし
三てまの解釈とて一ひけ百のことを
和至と東陣起の詞とり本佐ちあるの和長武

て京に帰りてこれを[illegible]し[illegible]伯和の名おとろへてこれをやはらげんとて新撰に入れ[illegible]
い例のごとく[illegible]を捨の題とつりて[illegible]
伊勢と変じて[illegible]
書られたる書ぬと[illegible]と[illegible]
これらを再撰の[illegible]句[illegible]
或は連[illegible]
西京の[illegible]句[illegible]
[illegible]○[illegible]
句とあげて[illegible]

初雪の[illegible]句とあげて[illegible]
いまく[illegible]
入[illegible]
い例のごとく[illegible]

三段切

月[illegible]

梅の葉[illegible]

前章[illegible]武江の[illegible]
[illegible]句の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ありなどして北優游などに樹もありその葉もあり
ばうと北をかくこと仮くけしあんしかるべしより
さきの句はあうしの葉をかきて葉の花物と云れしく
紙前生後の像ありて三句をかくと云れしの作者
と思はれて十成の俳諧歌なり
さきの人〻は芭蕉の門中に切字なくれしおれと
そこと北をかくことをのべて三句をかきれ
い二字切の例をもて二句切もある人〻れ連歌
のたれかくこと名なくれい自家の作句とあるよ
なるべし〻れ一世の家後と為べし〻

東花云△再撰されしは切の作句を発句と
性なり切字なくして句をかくとき切字を一句を
句体にして二句をかくとき二句
の名目なくれい云て地名と月花を連歌
の古句とかりてもの二句の作句あんかと
例の述而不作とそこるるの智恵を信とし
ばちをかくこと三字のの名あれい二句二句の名も
あるんやひそかに我家の作句とをつれて意に
再撰の腕力とおくむしてを一二所の家後いかく
のそとく一世の心弟とかりむるあられ

二段切　メリヤス。ゐるまし。たうてゝ孔の穴
空蟬。空蟬。空蟬やの殼。空蟬中
されば此三句のことゝ[illegible]
所のむかしの手枕をくて久恋しかるまゝ[illegible]
ゆるまるゝ恋を恨て二段の差おちりに[illegible]
調の対句にて句[illegible]移せし次よ
空蟬と空蟬を拾本実心岩の紙[illegible]
るゝ空蟬の素性とし[illegible]空蟬せるこゝ[illegible]
とむしさるる空蟬の[illegible]殼の[illegible]
まゝ空蟬の格と称[illegible]

[illegible]
をもゝ[illegible]
と段[illegible]
おもれて[illegible]
蓬二云▲三接[illegible]
[illegible]二段の[illegible]
仲句[illegible]
人の[illegible]父[illegible]
句を[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

んとめぐりきたりしかども百代一代
の傳授の書にも名月を初秋のそらにこそ
ながめいでたるものなれとまうしつたへ
たれども式の中に一名にして
八月十五夜月とあくまでもやまとことば
とぞ　まくてにあるべき物なり　雲章
　　　

といふこれて千代の寿を祈るより字有れば寿詞
とはとあげて行く所に北条氏と人物は
はたらしやかたちに再撰の場にのぞむ
一部の新撰とかの人いれ歌学に二条の名とふ
耶学者は京の名を捨てこの月の歌と
もかはむれ多名をいとれ引むとの神の
八十歳にいひ紹巴の五百年像にうる仰北
百年一万僧に御を一京くに古歌を
合ねはとつまとを彼子息の談英訓
とあるかの夜話あれいかれてし御のかるる

へは武月の場城あんうを所をれれの撰詞
此一言一句音の所有ちるとこの名の沙汰とし
百年をんやうと遺稿の大任にて用捨
御の家深とよりんをやを
桐の木。新撰の師ちる塀の内
おもい 神のおもむと寄の前
それい新の一章を田義の前家にふひあり
言をとりも家の屋貴と思ひやりる様
ありとれをとりいの句を切りて桐の木
とてあれをちの子を桐の木者白をんを

桐も新しくあらば田家を称せらるべけれ
新味あらば句となりて塀の内と陽へとかも
あらば況や新味ならずとも句法に古歌の義人
ちるとやハらやおのこ北條と謂ふと遠く
田舎のもの樂とこんもりとして桐のもと富も
とおのづからまことやちると感人
の跡もとりとなるべしとあれども動く
動かねと北論あれいはば句を振の手北方ちん
とちりとを新用の諸あるやうと新を解
もって桐を句作の用とふべきもとと振の根

のこと官家と擬俗の姿あんと桐を田家の
富もちり物やもしてやこれこと家とは桐を
はなの石奥と言ふ一次と柚の実北一言を
諸説の居柿舎の懐旧あり言あり北
言葉を武門の功とを受けて知る筆人の名を
称とかの北臣用とをるちらへ一時とは言と
おのこ北信と柿のもと貧富の二様あり
の北不常の俗とおのへ言とんとやとと
ちれい柿印の用とこの北
あれいむと北業類とと言のあんと大石の居新
あんと言のあんと例の諸説

とにくとりもゝ〻再撰まうしけゆゑ和歌まし
ますあるくおのこゝろ求をこゝにはとりあつ
めまゝおとなはまうけ通例あれゝ今は二章
いらの分ゝゆゑんはゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
抱はまゝ特四めこゝ味とまるゝもゝとおまへ
の四分ゝゝいゝむ求ゝけゆの地ゝふい一ゝも
初句の書ゝとむゝへて寓句をゝれゝいゝゝ
ゝの書ゝゝ開ゝ通途のまゝあれいあり
ゝ今は北おまゝ北ゝ北ゝ北ゝ北ゝ
求ゝ古松の合同ゝ大廻ゝゝい玄斎ゆゝゝ

ゝおゝゝに合同あゝゝゝれの初句ゝんゝ沒や
玄斎の合北ゝ富ゝん我家の求月ゝ
れゝゝ寶議の用捨あんゝ〇今梅まゝれゝ玄斎ゝ
初句ゝとゝゝく極ゝまゝゝゝ格ゝゝゝる合同
いあゝしゝゝゝゝゝれいゝ和歌ゝゝ新ゝゝ和
の合あゝゝ遠玄斎ゝゝ極ゝ行ゝ廻雪北京
北あれい南北斎ゝゝ極ゝゝ一異京西北京ゝ
ゝ極ゝゝゝお合の次第あゝれの和歌ゝゝ遠玄
あゝゝんいゝれの能説ゝゝ南北かゝん玄斎と一格の
合ゝあゝゝいゝ合ゝ貴狐のゝ格ゝ上ゝゝゝゝ

まことに世にまれなる美しきものなれば和歌にも俳
諧にも有二一節一なれども具体なれば以下のごとくあり
こゝに初めてあるべきを作られ侍りしかばこゝに
大廻し云物しかしかの極部あんこと或は発句に
句数とももとの名付けんとやうにと物名
大きにつゝしむ或は所詠者此句をはじめの人
不知れし発句を拾ひ発句あんこと共名付
こと名用とうらへて高ひくしてこゝに
ひとくしけこと名を高の神句ひとつ和歌の
名用し物語の事語の引用ひとつ

人物のひとかたりあり事柄の人北家とやあるむ
所作事家とまれ作とまれ或は月あるの或月あるの
なれ中れれ物作を対して論をへうをひとつむ
戸歌し戸歌しもこのきやうにあること言語不到の
名あんこと物名の神句もまれてなし
東花云世俗を持て臨莫こと例の歌をもちに
路あるこゝにもこれ一部の結構を歌なの
作句とまれ一こと作句をかく過ぎちうを対
て物句と作をまりくきあること例を和歌の
題言ちりを作を例の多名をいふこと

古抄の名目とあるこれをやこれるこ滅れて撰集
の歳とこれとあるなるなるなるなるなるなる
御命のまにまにあるまるれく武蔵の貴遺稿ここれ
て今此句とあけるこれこれこれこれこれこれこれこれ
かるこれ西施の容色ここれこれこれこれこれこれ再撰
のこれ此撰集にしれこれの句に罪おかこれ
これこれこれこれ家語と家ふこれこれこれ

大廻　幸隆の打ちたるとしより脇こ。
りまとあるこれこれこれこれこれこれこれこれ

やうにせんの句をかけることばをうけてにはの句を
をはりとをかしくをはりをかしくをはりをかしくをはり

おなじ山ぶきと詠るにゆゑ〻節あり
て〻ふ作りの中に作りいれ下句をかなに大海の也
ちれる山ぶきの花の間よりゆきかよふ千鳥
を或は月にあるを或は夕日に花の春日
を或は月にあるを或は秋月の春日をしたるを
を或は秋月の春日をしたるを
居秋の詞詠をいつれも所合の事なく
あるを句のを味噌の糸花と知くて春日い
はゆる春日あんを云ふ所の詞
ゆをしてよへるれんよりまたあるを
人のをてをよへるれいを歌ひをとく

をとる神祭の作りをしてよへるを今再撰するに
二句を信して古歌を句を抜をを解を解
の詞をおして秋字の或月をなるをよへる温故
知新をとる故事の事をあるをよへるれい
一作の子春をを古尺ををあるをよへるれい
の句をを作りをしを式の句をを作り式
ををれをあん

真字序 仮名序